

自己点検・評価について

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		「経営とコンピュータ利用」（2単位）、「経営情報活用論」（2単位）、「プログラミングおよび実習 A 1」（2単位）で構成し、3科目6単位の修得をプログラム修了要件としている。 2024（令和6）年度の履修者数及び修得者数については、以下の通りである。 「経営学部 データサイエンス・AI応用基礎プログラム」：履修者数：159人、修得者数：0人 「経営とコンピュータ利用」（2単位）：履修者数：159人、修得者数：123人 「経営情報活用論」（2単位）：履修者数：0人、修得者数：0人 「プログラミングおよび実習 A 1」（2単位）：履修者数：0人、修得者数：0人 ※本プログラムは2024年度以降入学生を対象としたプログラムであるため、4セメ（2年次第2学期（後期））開講の「経営情報活用論」、5セメ（3年次第1学期（前期））開講の「プログラミングおよび実習 A 1」については、2024年度の履修者は0名となる。
学修成果		経営学部 データサイエンス・AI応用基礎プログラム対象科目を受講している406名（プログラム対象外学生も含む）に対して、授業アンケートを実施したところ、設問「この授業のシラバスに示されている「到達目標（目的・ねらい）」を、どの程度達成できたと思いますか」では、「90～100%達成」が5.2%、「80～89%達成」が29.8%、「70～79%達成」が43.1%と8割弱の受講生より「70%以上達成できた」と回答を得た。 また、設問「授業は積極的に受講しましたか。」では、「積極的であった」が38.4%、「どちらかといえば積極的であった」が46.1%と8割以上の受講生が「積極的に受講した」と回答した。 さらに、設問「授業内容は、全体的にみて今後役立ちそうだと思いますか」では、「非常に思う」が44.8%、「やや思う」が48.3%と9割以上の受講生が「今後役立ちそうだと思う」と回答した。 これらのことにより、プログラムの学修成果の一つである「データサイエンスやAIに関する基礎的知識の修得にとどまらず、様々な分野で活用できるようになる。」については一定の水準において達成していると評価できる。
学生アンケート等を通じた学生の理解度		経営学部 データサイエンス・AI応用基礎プログラム対象科目を受講している406名（プログラム対象外学生も含む）に対して、授業アンケートを実施したところ、設問「授業の内容について、あなた自身理解できていると思いますか」では、「非常に思う」が2.2%、「やや思う」が54.7%と6割弱の受講生から「理解できた」と回答を得た。 また、設問「授業の難易度はどうでしたか」では、「難しかった」が17.2%、「少し難しかった」が56.9%と7割強の受講生が「難しかった」と回答した。難易度が高かったことから、理解度も低くなっていると思われる。 今後も継続してアンケート調査を行い、学生の理解度の把握に努める。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度		経営学部 データサイエンス・AI応用基礎プログラム 対象科目を受講している406名（プログラム対象外学生も含む）に対して、授業アンケートを実施した。直接「推奨度」を問う質問は準備していなかったが、設問「あなたはこの授業に良く出席し、興味を持って受けていたと思いますか。」では、「非常に思う」が19.0%、「やや思う」が57.4%と8割弱の受講生から「良く出席し、興味を持って受講できた」との回答を得た。また、設問「授業内容は、全体的にみて今後役立ちそうだと思いますか」で9割以上の受講生が「今後役立ちそうだと思う」と回答したことから、他の学生への推奨度も高いと推測される。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		2024（令和6）年度は、専用のWEBページを作成したほか、履修要項へのプログラム概要の掲載、プログラム対象科目受講者に対するプログラムの周知、新入生向けオリエンテーションにおける同プログラムの紹介チラシの配布など、履修者数、履修率の向上にむけた取り組みを展開している。
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		本プログラムは2024年度入学生を対象として開始したことから、プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価を得るまでには至っていないが、今後、キャリアセンターが実施している卒業時進路データ、卒業後1年目および卒業後3年目を対象とした卒業生アンケートをもとにプログラム修了生の進路先や活躍状況を把握する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		民間企業等でデータ分析や解析等に関わってきた経験を有する本プログラム科目担当教員を含めて、教育プログラムの内容や講義の進め方について意見収集をしていく。また、実データ提供企業等からも意見を取り入れ、今後のプログラム内容の見直しの参考にする。 なお、「経営情報活用論」において、2024年度は以下3件の覚書を外部企業と締結し、提供された実データの分析を演習した。 ・データサイエンス教育の実施に係るデータ提供に関する覚書（丸善雄松堂株式会社）2024/4/18 ・データサイエンス教育の実施に係るデータ提供に関する覚書（龍谷メルシー株式会社）2024/5/7 ・産学連携活動の実施に係るデータ提供に関する覚書（マルトシ珈琲株式会社）2024/9/9 更に、株式会社時代屋が経営する餃子の専門店福岡吉京都本店に対して、弊学内の学生アンケート結果を分析したうえで学生のランチ来客数増加につながる提案をプレゼンテーションした。店舗管理者からは学生アイデアを実店舗に採用したいなどの好評も得られており、2025年度以降も積極的に外部企業との連携に取り組む予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		経営学部 データサイエンス・AI応用基礎プログラム対象科目を受講している406名（プログラム対象外学生も含む）に対して、授業アンケートを実施したところ、設問「授業は積極的に受講しましたか。」で、8割以上の受講生が「積極的に受講した」と回答し、設問「あなたはこの授業に良く出席し、興味を持って受けていたと思いますか。」で、8割弱の受講生が「良く出席し、興味を持って受講できた」と回答したことから、本プログラムの受講を通して、「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を理解してもらうことができたといえる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること		授業アンケートに加え、定期的な小テストなどによって理解度確認を実施しており、その結果を分析することにより、講義内容の見直しを行っている。また、授業サポート体制として、LMS「manaba course」を通じて学生からの質問受付を行い、分かりやすい授業とする工夫を行っている。
※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		